

・グローバル化をしろ

・多様性にまなご

・共生をつくる

国際社会科学の2年次からは、海外フィールドワークや国内ボランティア活動を通じてグローバル化を実践的に学ぶプロジェクト型学習「国際社会プロジェクト演習」を履修することができます。

同演習には、教員の専門に基づいて3つのコースが設計されています。それぞれのコースで学生は、現代社会が直面している様々なグローバル・イシュー群（地球規模の諸課題）を発見し解決する力、そのためのチームワーク力などを主体的に体得していきます（2年間の継続履修を推奨）。



コース① 現場にたつ国際理解プロジェクトーインドネシアのエビを手がかりにグローバル化を学び、日本とアジアの格差解消を展望する

本コースでは、グローバル化の過程で、日本の社会・文化と世界が互いに関わり合いながら結びつくようになったのかを、世界商品の生産と消費をテーマとする現地フィールドワークを通じて理解することを目指します。着目するのは、身近なモノ＝エビを介して結ばれたわたしたちと世界との関係です。調査はインドネシアの学生と合同で行い、互いの知見を現場で交換しながら、日本とアジアの国々がいかに持続性のある、より良い関係を構築できるのかをともに検討します。参加者は、これらの経験を通じて、地球規模の構想力、国境を越える共感力、世界的なネットワークを実践的に身につけます。

コース② フェアトレードプロジェクト ラオスのコーヒー生産者の世界を知り、社会的課題を探求する

本コースでは、ラオスのコーヒー生産地域でラオス人学生と一緒に家計調査を行ない、フェアトレードの社会的・経済的影響について考えます。調査時には、農村に滞在してコーヒーの収穫や加工を体験します。同時に、フェアトレード団体を通して輸入されたラオスのコーヒーを、学生たちが自ら販売し、その収益の一部を使って、学生たちが立案した教育支援等の社会的課題の解決に向けたプロジェクトを現地において実施します。このコースでは、フェアトレードのあり方について体験を通して深く考察・理解するだけでなく、プロジェクトの立案・実施を通じた社会参画の態度を身につけます。



東洋大学日本語教室

SPiRiT

Study support Project for International
with Real International



コース③ 多文化共生プロジェクト 「外国にルーツをもつ子どもたち」に対する学習支援のあり方を探求する

本コースでは、「外国にルーツをもつ子どもたち」に対する学習支援のあり方を探求することを目的として、学外の各種団体が運営する学習支援ボランティア活動に参加します。学生は外国にルーツをもつ子どもたちと交流しながら、相手の置かれた状況に対する理解を深め、自ら社会的課題を発見し、学生たち自身で課題解決プロジェクトを立案・運営することを目指します。本コースでは「外国にルーツをもつ子どもたち」を取り巻く社会状況に関する基礎知識を習得する一方、支援体験のふりかえりを徹底することにより、現代の日本社会が抱える課題を自分事として捉える力を身につけます。